

里尔然丁時報

回復途上の亜国経済

革命後数年同次滞の慮に在つた亜国の経済界は一昨年を限界として回復期に向つて来た...

米南中対が状 策政進増易貿

輸入は前年の九千九百九十九万に比し、輸出は一億一千九百九十九万と前年と変化が少く...

米商条約締結を期す

米商条約締結を期す 米商条約締結を期す...

伊亜通商協定締結

伊太利公定為替を獲得 邦商に迫る脅威の影

別項所載イタリヤアルゼンチン通商協定締結交渉は約款落した進捗...

金積より外債償却用の一定額を捻出せる額に對して公定為替を自由為替相場より二〇%安く定むる...

米夜貯之種 本月四月華盛頓で開催される種畜工業三部制会...

御案内

御案内 御案内...

西館版重要記事 日本音楽の前途 日本食点作法

### 海防充備に米國邁進

明年七月迄に新艦六十六隻就役

修正海軍予算五億二千万弗

(ワシントン三日) のこゝろ、新予算の重なる項目は米國下院議院委員の通り、八月度の海軍予算案を可決、直に本会議に回付し、右は原案の五億六千二百四十万五千九百九十九万八千七百八十一弗を削減、結局五億二千六百五十九万五千三百六十七年度は三十八億五千万、四百廿八億を承認したと

入購台百四枚軍海

一連艦費一億三千万弗、内試艦遊艇八隻、潜水艦四隻の起工費、主艦二隻、航空母艦三隻、巡洋艦十一隻、駆逐艦四十八隻、潜水艦十六隻、砲艦二隻の建造、艦費、本年六月廿日迄に新艦廿八隻が就役する、明年七月迄に新艦廿八隻が就役する予定である。

一航空費四十九億五千万弗(一九三六—三七年)は三十八億五千万

### 佛白が侵略を受けた場合 英国は武器をとつて立ちたう

イデーデンの外交方針の明瞭な説

(ロンドン三日) イデーデン外相は二日午後下院に於て英國政府の外交方針を説明し、ライプツヒヒに於けるドイツ大使フォオン、リップベントロツプ氏の演説に應酬、新口カルノ体制案並に植民地問題の言及左の如く述べた。

英國政府は現口カルノ体制を維持し、植民地をドイツ政府に移管する意志はあり、ドイツ政府に対し、これは依然然然の態度を維持するが、佛白兩國が挑撥したる侵略を受け、場合によっては英國政府は何等の武器をとつて立ちたう、再軍備が絶対必要だと云ふ以外、新のつけ加へることはあり。

### 國際聯盟

資源再分割案の討議 通商統制打破を英國提言

(ジュネーブ三日) 資源特別委員会は八日、ジュネーブに於て開會、原料資源再分配の討議、二日夜の會談に先立ち、聯盟事務局長は英國政府は原料資源の不均等分配に基づく危険な情勢を緩和する目的、通商貿易の統制打破その他特殊方法を提言してゐるが、他は植民地を委任統治領に改変すること、國際統制により

全世界を通じて組織的に原料資源を分配すること、自由貿易制度に關する國際統制設置案等が提示されてゐる。

### 空軍根據地を 桑港に置け

大將下院の演説

(ワシントン三日) 米國海軍々令部長ワイリアム、大將は海軍予算案の審議に當り、下院に於てアラメダ空軍根據地設置の必要を強調したの如く述べた。

現下の國際情勢は甚だ危険、大平洋上の戦争に際しては、交番兵力並に燃料を補充する為め、航空連絡上便利な地である航空機の組立工場並に燃料場を設置せしむべきである、以上が目的にはサンフランシスコ灣の一帯適當な地を、アラメダ港に十五億の費用を以て空軍根據地の新設を提言する。

リイ提督は更に米國現在在力艦十隻及び航空母艦二隻に就て高射砲砲塔推進機甲等に於ける欠陥を指摘し、其等及び補助機改修の案要する事を述べ、最後に小型航空母艦の必要を力説した。

### 移轉御披露

隨時下野の御各位益々御清祥之段奉慶賀、

陳省等工場閉立以來十年一方おりの各位の御引立を蒙り今日迄は在米の御功勞に對し、御一新一、御地の工場を以て、御隱居する迄に立到り、御予てより新築中の工場、カビル、御六〇七番、御移轉せ、

此而何卒御舊の御屏御鏡、御左の御屏御鏡、御披露、御此致して御願、如斯御座候、敬白、

昭和十二年三月四日、

アベサヤナ、

山元陶器加工場、

備以度し、身體強健、進歩堅固なる青年、當洗染店及び染色工場に備以て、見習に可、本細面談、

Sanon X. Galcon 2385

本日午前七時入港

林月廿四日入港



### 佐藤駐佛大使 外相に任命

(東京三日) 外相兼任の交渉を受けた佐藤駐佛大使は三日午後二時十分、院内総務大臣室に於て林首相と会談、更に杉山陸相と交ハ二時間、互つて懇談した結果、外相兼任を承諾した。よつて林首相は午後四時廿分、内務御前可成得たので同日午後五時半宮中鳳凰の間で於て親任式を行はせられた。

特命全權大使従三位勲一等 佐藤尚武  
任外務大臣  
内閣総務大臣兼外務大臣 文部大臣  
兼外務大臣 林銑十郎

### 小幡元駐独大使 外相兼任を辞退

#### 健康上の理由に基く

(東京三日) 林首相は専任外相として元駐独大使小幡吉吉を起用するの決定、小幡は二日後林首相の招きにより院内総務大臣室に於て首相と会見、外相兼任の交渉を受けた結果此れを拒絶した。

林首相としては最近の対軍部関係並に閣内閣外より同氏の出馬を促すことが最も適當であるとして、小幡の健康を理由として、二日後東京の佐藤尚武駐佛

大使互起用するに、あるから、同大使と辞退する概ぶ決定するに至つた。場合によつて、林首相としてと雖も、而して佐藤の果し、針互変更して、広く人材を各方面に求むれば、外相の任命は多の地境より推して、少選定することとなりうと見られて、相当疑問視されてゐる。

### 府の農村対策は地主本位だと

#### 三宅正一農相の内史

(東京三日) 農相三宅正一は午後一時十分開会、農田部長より尾崎行雄の衆議院解散に関する質問書に二件は政府より文書で返答する旨を述べ、前日の引續いて農地法案に対する質問に答へ、上野高(農政)と農正守(政友)の質問に答へ、三宅正一(社大)は、我々農村問題が政治的に重要視されるのは、一五事件以後である、而してその農村対策は、

### 二日の衆議院本会議

議上りてやうめかしく、昨最後は、部落所有地の開放、その保護法の徹底等、更に山崎農相の所見を求め、

山崎農相、三宅君の意見には、概して、すべしとのめあつた。政府の政策は、決して地主本位ではあり、直接生産者の利益を擁護してゐる。

### 土地固有論

の通り本法案は土地私有契約自由の概念の上で立つてゐる、一々の理論によつて全部の支那を物する考へ方は、いふ所、

と答へ、三宅君の質問、

現状維持主義者である山崎農相は、農相たる資格があり、我々は、働きの地主は、收穫物の配分、預る権利を、と信ずる、

### 英帝戴冠式に参列の鳥 巡洋艦足柄を派遣

(東京三日) 帝國政府は英國政府の招請に應じ、陽春五月英國で挙行される英帝戴冠式に参列のた、わが艦隊の一方を巡洋艦足柄を派遣することに正式決定すると共に、英國政府に対し招請應答、軍艦足柄参列の回答を、二日午後二時遊弋海軍省より左の如く公表された。

本年五月舉行される英國皇帝陛下戴冠式に参列するに、司令官小林宗之助少将の率ゝる軍艦足柄(艦長武田清次大佐)が派遣参加せしめらるゝ事となり、同艦は四月下旬本邦を、印度洋、地中海を経て五月上旬ボツマスに着、前記戴冠式に参列し、帰途は大津陸路を逆行し、七月上旬内地帰着の予定である。

此の参列に對し陸軍政府を、梅津次官、國防の基礎を國家統帥員に置くことは同感である、成べく早く議會に提出される迄、あることと希望してゐる、勿論各省との見解交換の如き行政機構改革を考慮する時、含めて研究し、と答へた。

### 去る二日の鴨獵

#### 帝國代理公使も参加

(東京三日) 外交團御禮遊の思召による第三回鴨獵は二日鴨五鴨場へ行はれ、久近宮殿下御臨場、グレイ米大使を始め、ドイツ、スイス、メキシコ、カナダ、アルゼンチン、シチヤ各国外公使は夫人、今般、船員等と共に午前七時頃自、動車で鴨場へ参入、鴨平式部長官以下、梅村、船員、鴨獵、正午に午餐を賜り、四時頃東京した。

### 國家統帥員法に關し 亀井寛一郎質問

(東京三日) 二日の衆議院予算委員会、

亀井寛一郎(社大)は、國家統帥員法の立案はどうかと問はつて、

近代國防の國家統帥員は、先河河、題とするのであり、作戦相

# 武装平和下の欧羅巴(上)

## 破局の一步前

歐洲と今日と面対する時代は、い、世界大戦の終り、また、又、大戦前の様子が光景の見え、潮流の感ぜられるのである。

その第一は何と云つてもスターリンの支配してのソヴェエツト、ロシヤと、ヒットラーの統治してゐるドイツの猛烈な対抗であり、

## ドイツとロシヤ

ヒットラーは四十歳(昭和八年一月)でドイツ宰相におけり、彼は極端な「赤」嫌ひである。その上にドイツは大戦で領土と資源を失つてゐる。アフリカ等旧獨領植民地を放棄し、海の彼方とあつては、有争の時、英國海軍に遮断せられ、フランス方面に、故に露國南部をクライナを取らねばならず、ヒットラー自身、度々宣言してゐる。征である。た、う比、は驚愕したロシヤは二つの方法で対抗を企てる。

一は軍備拡張を、昭和十一年春に、百三十万の増員と定め、露國軍は今や百六十万に達し、云は、る。一はコミンテルンの共同戦線策で、ロシヤ以外の諸國に於て、

## イタリア・エチオピア戦争

その、う、昭和十年十月から、半、年、間、に、エチオピア戦争は、非、常、に、激、烈、な、戦、争、を、行、つ、た、。、その、結、果、は、意、國、が、エチオピアを、占、領、し、た、。、

露國と云ふ世界平和機關の役に、

立、た、ぬ、こ、と、互、に、明、白、に、し、た、か、ら、た、。、之、は、歐、洲、各、國、互、に、急、々、自、分、の、能、力、以、外、に、頼、む、こ、の、あ、い、こ、と、を、痛、切、に、感、ぜ、し、た、。、益、々、軍、備、擴、充、を、務、め、た、り、た、。

しか、と、え、い、い、重、大、な、事、件、が、何、れ、に、入、り、深、甚、の、興、味、を、起、し、し、て、ま、さ、る、の、は、こ、の、事、件、が、又、ドイツ、イ、タ、リ、ヤ、の、接、近、に、大、い、に、役、立、つ、た、こ、と、で、あ、る、。

## ムソリーニの奇策

國際聯盟は伊エ戦争に、つ、き、終、了、を、決、定、し、た、。、が、ム、ソ、リ、ニ、は、非、常、に、地、配、し、て、奇、策、を、考、へ、た、。、そ、の、一、は、イ、タ、リ、ヤ、一、國、で、は、六、ヶ、し、の、際、に、ドイツ、を、利、用、し、て、

そ、の、以、て、丁、度、の、時、分、に、ドイツ、は、大、正、八、年、の、瑞、和、条、約、の、兵、隊、十、万、を、無、償、に、五、十、万、に、増、加、し、を、發、表、し、た、。、

現、在、は、た、り、か、ライ、ン、河、地、帯、の、下、

ドイツ軍備復興であつた。

## ライン河軍備の回復

ライ、ン、河、と、云、ふ、の、は、過、去、三、百、年、間、フ、ラ、ン、ス、と、ドイツ、の、相、争、つ、た、。、場、所、で、そ、の、に、明、治、三、年、の、普、魯、戰、争、。、大、正、三、年、世、界、大、戦、の、時、。、ドイツ、は、こ、の、ライ、ン、河、地、帯、に、軍、備、を、充、實、し、て、お、か、た、。、開、戦、の、時、に、突、如、に、内、に、佛、領、内、に、侵、入、し、得、た、。、そ、の、以、後、フ、ラ、ン、ス、は、大、正、八、年、瑞、和、條、約、に、於、て、ライ、ン、河、を、以、て、その、左、岸、は、同、河、の、東、方、五、十、キ、ロ、メ、ー、ト、に、引、き、返、さ、る、條、の、西、方、は、同、河、右、岸、に、於、て、築、城、を、禁、止、し、た、。、又、は、橋、梁、を、修、復、し、し、と、規、定、せ、し、め、た、。、

現、在、は、た、り、か、ライ、ン、河、地、帯、の、下、

## 仲好くあつたドイツ・イタリア

こ、の、時、の、事、件、は、大、い、に、ドイツ、と、イ、タ、リ、ヤ、を、仲、好、く、し、た、。、双、方、は、度、々、談、合、し、て、ゐ、る、内、に、益、々、打、ち、合、つ、て、多、少、の、軍、備、に、存、在、し、た、。、互、に、相、利、用、し、相、成、功、し、し、た、。、

## 英佛を目一困つた聯盟

現、在、は、た、り、か、ライ、ン、河、地、帯、の、下、



警視廳の証明書発給事務は

「非能率的で建物内部は甚だ不潔」

改善を要すとラブレシ紙が指摘

真計証明書、善行証明書、運轉計... 可証其他警視廳発給各種証明書... 得る事の困難は周知の事実...

市内モーター街一七五の警視廳... 証明書発給事務は毎日平均一... 千五百名が押し寄せると...

フスト大統領帰武

州警候補イリオレトと面談

メキシコから大量買付

亜國産玉蜀黍

(メキシコ三日)メキシコ政府は国内... 玉蜀黍價格騰貴防止のため...

恒例の親戚式統帥のためマルテル... 午前七時半東京側近着等...

棉花相場高騰

七年來の記録的価格現出

亞國棉花取引所発表によれば去る三... 日同取引所に於ける定値に現はれ...

伊亞通商協定

交渉は最後の段階に到達

予てより進行中のイタリ-アルゼ... ンチン西風通商協定締結交渉は...

Table with multiple columns listing market prices for various goods like oil, flour, and other commodities. Includes a small advertisement for '中川商店' (Nakagawa Store).

決断伴事拐誘兇幼... 容疑者カニセド... 被害を自白す... 南米のリンナイ事件、大...

### 日毎に美化する武市の面影

#### 心藏地帯蜿蜒三十町を横断して

#### カルロスベリニグリニ街大拡張

デイトナナル・ホルテの大略路通、コ、ロスベリニグリニ街、ホニナに金一  
 リエニテス街拡張とアエニスアイル  
 スリ市街も御化整頓され、街まで拡張する中、町の大通路は  
 すっかり近代的面影を呈し、

（一）音 町の面影は、世界の都市の境を越え、OK、という上り右のプランが、早  
 各就を備へるに至り、アスファルトの  
 舗道は、カソリックの香水瓶が、コ、  
 ンクワイトの白粉で塗られた、  
 テインアの横断は、ネオンライトの  
 首飾りが、その耳元は、冬、  
 よりも、アヤズリ、恋唄が、さ、  
 れる、今日と、あつたが、武市の美し  
 く、ふりた、この、欲望は、本、  
 ル、テイニング、マ、に、限、り、  
 び、て、行、く、もの、と思、え、今、度、は、も、  
 一、つ、大、規模、の、美、整、頓、を、ま、つ、て、  
 し、よ、る、云、ひ、出、した、美、整、頓、を、  
 場、所、は、町、の、真、ん、中、二、三、人、  
 方、の、虚、栄、の、市、カ、ル、

（二）音 町の面影は、世界の都市の境を越え、OK、という上り右のプランが、早  
 各就を備へるに至り、アスファルトの  
 舗道は、カソリックの香水瓶が、コ、  
 ンクワイトの白粉で塗られた、  
 テインアの横断は、ネオンライトの  
 首飾りが、その耳元は、冬、  
 よりも、アヤズリ、恋唄が、さ、  
 れる、今日と、あつたが、武市の美し  
 く、ふりた、この、欲望は、本、  
 ル、テイニング、マ、に、限、り、  
 び、て、行、く、もの、と思、え、今、度、は、も、  
 一、つ、大、規模、の、美、整、頓、を、ま、つ、て、  
 し、よ、る、云、ひ、出、した、美、整、頓、を、  
 場、所、は、町、の、真、ん、中、二、三、人、  
 方、の、虚、栄、の、市、カ、ル、

（三）音 町の面影は、世界の都市の境を越え、OK、という上り右のプランが、早  
 各就を備へるに至り、アスファルトの  
 舗道は、カソリックの香水瓶が、コ、  
 ンクワイトの白粉で塗られた、  
 テインアの横断は、ネオンライトの  
 首飾りが、その耳元は、冬、  
 よりも、アヤズリ、恋唄が、さ、  
 れる、今日と、あつたが、武市の美し  
 く、ふりた、この、欲望は、本、  
 ル、テイニング、マ、に、限、り、  
 び、て、行、く、もの、と思、え、今、度、は、も、  
 一、つ、大、規模、の、美、整、頓、を、ま、つ、て、  
 し、よ、る、云、ひ、出、した、美、整、頓、を、  
 場、所、は、町、の、真、ん、中、二、三、人、  
 方、の、虚、栄、の、市、カ、ル、

### 日会の定期總會迫る！

#### 役員会から役員半数改選及任期三年制を提案

#### △選挙委員長以下委員決定

在日日本人会の本年度最終役員  
 員会は去る二日午後九時、  
 より同会館に於て開会、

### 役員最終

在日日本人会の本年度最終役員  
 員会は去る二日午後九時、  
 より同会館に於て開会、

（一）追悼会開催の件、司会者は高  
 市氏、会場は、上、運動場、（雨天の場  
 合は、講堂）とし、本年度は、読経を省  
 き、追悼文朗読、一分間黙禱、玉のほ  
 こらには、故人名簿を掲げ、

（二）定期總會の件、三月廿八日午後三  
 時より開催される定期總會に於ける  
 選挙委員長は、有水藤太郎氏、以  
 下委員は、委員長の推薦により左の  
 如く決定、

△選挙委員長 有水藤太郎 △投票  
 管理委員 鈴木一 堀沢長助  
 宮田敏市 中川長作 高市茂 中  
 村六平 △投票立会人 中矢和一 香  
 藤彦藏 府内善平 宇野九郎 △  
 南票管理委員 及川晋治 本田伊  
 吉 片山良平 深田八重郎 西坂  
 實水 崎向慶徳 △南票立会人、  
 水野勉 新村安彦 新宅隆一 大  
 城正雄

（三）總會席上役員会提案 役員半数  
 改選及び役員任期二年とし、再任  
 を許さず、而上して役員任期満了者は  
 その被選挙権を失ふものとす、この件  
 は役員会で万場一致決、今總會に提出  
 行ふこと、であった、

（四）本年度リゲ戦持尾の試合  
 本年度野球リゲ戦は、二、位、と、確、保、也  
 る、四、番、半、は、ヒ、ナ、ミ、ア、軍、と、二、軍、球、場、に、於  
 て、明、七、日、午後、三、時、半、から、持、尾、の、試合、を  
 行、ふ、こ、と、であった、

### 右田納助氏

昨年三月、病臥、不、來、於、是、處、是、病、臥、  
 在中、であつた、右、田、納、助、氏、は、昨、秋、夫、人、の  
 没、後、向、來、の、病、を、一、月、五、日、買、得、癒、得、  
 は、買、得、癒、得、が、元、で、一、月、五、日、買、得、癒、得、  
 吐、血、四、回、に、及、び、其、の、後、一、時、小、瘧、を、得、  
 一、月、十四、日、午後、三、時、不幸、に、遂、に、死、  
 年、五、十九、

### 大阪商船会社決定

大阪商船会社は、大阪、新、築、を、以、て、日  
 領、貿易、促進、の、見、地、か、う、今、度、い、く  
 ぬ、り、如、く、七、月、モ、ニ、テ、九、月、船、と、す  
 丸、エ、リ、往、來、の、定、り、オ、ケ、テ、ア、ス、ル、に  
 寄、添、する、こ、と、に、決、定、し、た、

（神、六、月、一、日、登、）  
 （ア、エ、ス、七、月、登、）  
 （神、八、月、登、）  
 （ア、エ、ス、十、月、登、）  
 （と、ん、と、す、丸、  
 ア、エ、ス、十、月、登、）

**MANCHESTER**  
*Sastreria de*  
*Galidad*

材料は全部  
 外製カシ  
 ミルを用  
 ます  
 月期十ヶ月  
 本日の使法  
 あり

U.T. 21-Barracas-1698  
 MONTES DE OCA 1783

日本屋敷  
 文化住宅 建築  
 家具製造修理その他  
 何卒御用命願ひます  
 大工並に  
 指図師 山本 玄  
 Arc. del Taylor K. H. T.  
 10. S. T. (Tel. 3150)





## El Porvenir de la Música Japonesa

por Katsumi Sunaga



Del folleto 14 de la Biblioteca del Turismo (Tourist Library) del Ministerio de Ferrocarriles del Japón.

La música japonesa atraviesa actualmente un período crítico de su historia. Se halla, por decirlo así, en frente del cruce de dos caminos, sin saber qué camino tomar. El Japón debe resolver si ha de seguir con su música tradicional o entregarse a una nueva reforma que, por otra parte, estaría de acuerdo con la vida nueva del día. No sería tampoco nuevo en la historia del Japón, puesto que la música japonesa de hoy es el resultado del desarrollo de tales evoluciones en el pasado.

El estado actual de la música japonesa puede decirse que lo constituye la rivalidad entre las formas tradicionales y las nuevas introducidas del extranjero. Esta rivalidad no ha conducido, sin embargo, al punto de destrucción mutua. Por el contrario, los contrincantes tratan de investigar las cualidades de las escuelas contrarias con el espíritu de armonizarlas. Los maestros de la escuela tradicional del Japón hacen esfuerzos para adoptar ciertas formas de la música Occidental, ajustándolas a los ritmos de la música nacional. Se advierte que en la música japonesa existen ciertos aspectos que denotan la posibilidad de evolucionarla con la adaptación de algunas formas occidentales, aunque, separadamente, no haya armonía real entre ellas. Es un problema, así mismo, la tarea de ajustar los tonos de la música occidental al gusto de la masa del pueblo japonés. En una palabra, los estudiosos entienden las formas de la música occidental, pero no el espíritu de ella.

La música occidental ha tenido empero fácil acceso al oído y corazón de la masa del pueblo japonés, por medios mecánicos, en los últimos años, me refiero al cinematógrafo parlante y la radio. No está satisfecha la gente hoy en día con el acompañamiento del clásico "Samisen", y hasta las canciones locales están sufriendo la transformación. Las frases y tonadas antiguas ceden su lugar a las frases modernas y tonadas del día. Son numerosísimos los compositores que se dedican a esta nueva escuela de canciones, pues son más que los de la escuela tradicional.

Entre los principales compositores de la música occidental, tenemos al señor Kósaku Yamada, que ha formulado planes para debutar con sus producciones en París, a cuyo objeto ha completado sus preparativos para su ópera. Mientras tanto se hacen esfuerzos para reavivar la música japonesa con el empleo de formas nuevas. El célebre maestro de "Koto", Michio Miyagi, ha conseguido componer música para Koto en armonía con los instrumentos musicales occidentales. Miyagi adoptó también muchas formas de la música occidental para sus composiciones de música japonesa del tipo nuevo. Hay, además, maestros de la escuela de "Nagauta" que producen músicas de este nuevo tipo, que se está haciendo muy popular en el Japón. Estas músicas se parecen mucho a las occidentales y son comprendidas y apreciadas por los europeos y ame-

ricanos. Son éstas, más que nada, las músicas vivientes del día, las más populares del Japón actual, y que interesan a los occidentales.

Estas tendencias en el arte musical del Japón, nos permiten formular lo que será la música japonesa del porvenir. Pues, bien; aunque parezca atrevido, diría que la música japonesa del futuro será de carácter occidental en su forma, que conservará, sin embargo, las delicadas cualidades tradicionales que apelan a la sensibilidad del alma nipona. La nueva música japonesa tendrá, en sus formas, las características de la música internacional, sin dejar de ser japonesa.

## ETIQUETAS EN LAS COMIDAS JAPONESAS

En la sociabilidad japonesa, en donde, reina suprema la cortesía, la observación de la etiqueta constituye la regla elemental de la urbanidad. En las comidas formales del Japón continúan observando las tradicionales reglas de etiquetas que impresionan gratamente a los extranjeros que tienen la oportunidad asistirlos. Allí rigen los movimientos rítmicos en un ambiente refinado y artístico que hablan muy en alto de la cultura antigua del pueblo del Yamato. Es un aspecto bello en una atmósfera de paz que encanta. Los nipones han aprendido el arte de comer para vivir en vez de comer para vivir, dice un crítico.

Una comida japonesa formal consiste de una sopa y tres platos, dos sopas y cinco platos y tres sopas y siete platos, según categoría y circunstancia. Se sirve primero la sopa, en cuya bandeja van la copita de porcelana para el "sake" — bebida — y el platillo de pescado crudo con sus respectivas salsas. Cuando ofrecen el Sake, el convidado alza la copita con la mano derecha, ayudada con la izquierda, y la tacita servida ha de colocarla sobre la bandeja sin probar la bebida.

Procede a quitar la tapa del tazón de laca en que está servida la sopa, que ha de colocarla al rincón derecho de la bandeja, y se sirve la sopa, después de lo cual ha de saborear el Sake, que le será rellenado, mientras come el pescado crudo a modo de aperitivo.

Luego, cuando retiran la bandeja de la sopa, llegan los otros platos en tres bandejas separadas. La principal que contiene el arroz, sopa y otros dos platos (arroz no se cuenta como plato, porque representa para los japoneses lo que el pan en el Occidente) se coloca en frente de la persona, la segunda a la derecha, y la última a la izquierda. El convidado hace las reverencias al dueño de la casa y destapa los platos de las bandejas, las tapas de la bandeja de la derecha han de dejarse a la derecha y las de la izquierda a la izquierda de cada plato, y para comenzar a comer se observan las siguientes reglas: Un po-

co de arroz y sopa; arroz y un plato próximo; arroz y otra comida, etc., no se ha de tocar las comidas de la segunda bandeja, sino después de haberlo hecho con todos los platos de la primera bandeja y así sucesivamente. La tercera bandeja que es un pescado asado no se sirve siempre, quizá por la dificultad que hay en manejarlo con los palillos, pero ello depende de la voluntad de cada uno. No debe aparentar que elige los platos para comer. El arroz y la sopa pueden ser repetidos. Al final de la comida sirven los pickles que son generalmente de nabos, pepino o berenjena.

Después de retirar las bandejas sirven el Té, algunas veces con dulces o frutas, prolongándose la sobremesa que es amenizada con música y bailes.

## COMERCIO ARGENTINO-JAPONES

## Interesantes cifras del mes de Enero

Hace pocos días el Secretario Comercial de la Legación del Japón dió a publicidad los datos del intercambio argentino-japonés correspondientes al mes de enero próximo pasado que, según estadísticas del Japón, alcanzaron en sumas redondas: Exportación 3 millones de yens e Importación, un poco más de 2 millones, esto es, un saldo a favor de la Argentina de 1 millón de yens.

Ahora tenemos los datos argentinos, correspondientes al mismo mes, aunque ello nada tenga que ver con los productos que han entrado o salido del Japón en enero, de o para la Argentina, pues los que salieron de aquí en enero recién llegan allí en marzo o abril y los que entraron aquí en enero han salido del Japón en septiembre u octubre del año pasado, cosa que, ante todo deben de tener en cuenta para apreciar estas cifras.

Las estadísticas argentinas ofrecen números sugerentes: Exportación al Japón — valor de plaza 4.869.443 pesos, contra 1.447.068 pesos del mismo período de 1936; importación del Japón — valor de tarifa — 3.855.909 pesos contra 3.313.089 pesos, lo que arroja un saldo favorable a la Argentina de 1.013.534 pesos, cuando en enero de 1936 el saldo era desfavorable en pesos 1.866.021.

El aumento en la exportación al Japón en enero de 1937, comparada con enero de 1936, que es de 3.422.375, equivale a un aumento de 237 por ciento. Sobre la importación, que se basa sobre los valores de tarifa que sirven para determinar las cantidades importadas; más que valores, indica que ha habido, también aumento sobre la del año anterior: 16 por ciento.

## LLEGO A TOKIO EL EMBAJADOR SATO

Tokio, marzo 1.º — Llegó a ésta el señor Sato, embajador del Japón en Francia, que suena como el candidato más probable para la cartera de Relaciones Exteriores.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO  
EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

## !Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

**MINISTRO JAPONES EN CENTRO AMERICA**

Tokio, febrero 27. — Ha sido nombrado ministro plenipotenciario ante los gobiernos de Costa Rica, Honduras, El Salvador, Nicaragua y Guatemala, el señor Saichiro Koshida, ex Cónsul General en Batavia. El señor Koshida actuó como Cónsul del Japón en Buenos Aires en el año 1929.

**PROXIMO DEBUT DE PELICULAS JAPONE-  
SAS EN EUROPA**

Tokio, febrero 28. — Anunciase que en breve serán inauguradas en diversas ciudades de Europa, películas de producción japonesa que la empresa UFA de Alemania, se ha encargado exhibirlas bajo la dirección de los técnicos japoneses.

**EN HONOR DEL Sr. K. ISHIKAWA**

El domingo 28 del corriente en el local de la Escuela Japonesa Burzaco (F. C. S.), en un acto especial, el señor Encargado de Negocios del Japón, doctor H. Terajima, hizo entrega al señor Kurajiro Ishikawa, de la Nota de la Sociedad Industrial del Japón, firmada por S. A. I., el príncipe Fushimi, presidente de la institución, por la cual formula el reconocimiento público de los méritos industriales del señor Ishikawa, señalando como modelo entre los residentes en la Argentina.

El señor Ishikawa fué entusiastamente felicitado por la numerosa concurrencia que asistió al acto, especialmente invitados.

**FIESTA EN LO DE YAMAMOTO HERMANOS**

Con motivo de la inauguración del edificio propio especialmente construido para Talleres de Decoración de Cerámicas, industria a la que se hallan dedicados los señores Yamamoto Hnos., y festejando al mismo tiempo el 10º aniversario de su fundación, ofrecieron el día 27 de febrero una comida en su nuevo local sito en la calle Cabilido 607 de la vecina localidad de Avellaneda, reuniendo, al efecto, sus amistades.

Concurrieron a la fiesta un centenar de personas, deseosas de presentarles la enhorabuena a los tres hermanos Yamamoto por sus éxitos bien merecidos. Los jóvenes industriales cuya inteligente actividad es bien conocida entre todos los connacionales residentes en el país, representan un modelo en la unión fraternal, razón principal de su prosperidad actual.

Anotamos entre otras las siguientes personas conocidas: Agregado Naval a la Legación, Capitán Hanada y señora, señor Kaho, en representación del Cónsul, señores: T. Midzuno, Hirakawa, Arimidzu Tsumagari y otros.

El "ARGENTIN DJIJO" que en su oportunidad notició acerca del desarrollo de la firma Yamada Hnos., cumple en esta ocasión, formulándoles una mayor prosperidad.

**REGRESARA A TOKIO, EN BREVE EL MI-  
NISTRO ARGENTINO EN EL JAPON**

Anunciase que en breve partirá con destino a Tokio, el Dr. Eduardo Racedo, ministro plenipotenciario de la Argentina ante el Gobierno del Japón.

**ANIVERSARIO MANCHUKUO**

El lunes 1.º de marzo, fué festejado en Hsingking, el quinto aniversario de la independencia de Manchukuo.

**NO SERA DESVALORIZADO EL YEN**

Tokio, Marzo 1.º (Domei). — El Ministro de Hacienda, señor Yuki, declaró en la Dieta que el Gobierno no proyectaba una nueva desvalorización del yen, agregándose la información que es posible que se realicen diversos envíos de oro al extranjero, cuyo monto ascendería a 200 millones de yens.

**Dr. JOSE G. ANTUÑA, FUE PREMIADO**

El senador del Uruguay, Dr. José G. Antuña, que preside la Sociedad Amigos del Japón de Montevideo, acaba de ser agraciado con el premio nacional de cultura por su trabajo titulado: "Ensayo Literario".

**LO QUE GASTARA EL MUNDO EN AVIONES  
ESTE AÑO**

Según publicaciones de la Bendiz Aviation Corporation de Nueva York, el programa de construcciones aéreas más grandes de la historia es el que ha comenzado a ejecutarse este año.

En efecto, revela que 56 naciones gastarán 813 millones de dólares en 22.000 aeroplanos de guerra, en comparación con 98 millones para aviones comerciales y privados.

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p><b>A. HANAFUSA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>K. ANNO</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081</p>	<p><b>S. YAMADA y Cía.</b> Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4406</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 44-4392 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p><b>IIDA y Cía. Ltda.</b> (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 38-2682</p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 3217</p>	<p><b>B. HARA y Cía.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Rivadavia 37-6614 U. T. Mayo 38-2438</p>	<p><b>S. ANDO y Cía.</b> Importadores BERNARDO DE IRIGOYEN 143 U. T. Mayo 38-1402</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.</p>
<p><b>KATSUDA y Cía.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p><b>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA:</b> Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733, U. T. Mayo 38-3413</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p><b>Casa "YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893. COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: Cangallo 462. — U. T. 33-1051 y 1052.</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3180</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	